

楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第8号

令和5年(2023年)9月21日
文責 校長 佐藤 政臣

夏休みが明け、1か月が過ぎようとしています。この1か月間で、夏休み気分から学校モードに切り替えることができたようです。



さて、これから年末までの3か月は、様々な行事等もあり、児童にとって一番充実した時期を迎えます。それらをやり抜くことで、様々な能力が身につく、大きく成長することでしょう。



では、学校で身に付く力とは何でしょうか。それは、各教科の学力だけではありません。

これからの人生をよりよく生きていくための能力を身に付けるところが学校です。

その能力とは、たとえば、協調性や計画性、コミュニケーション能力などがあります。

合志楓の森小中学校でも、9年間で身に付けさせたい3つの力を示し、取り組んでいます。

合志楓の森小中学校で身に付ける3つの力
○やりぬく力 ○伝える力 ○協働する力

これは、人生を豊かに生きるために、子供の時に身に付けておくべき力として、定義されたものです。これらは、数値化できない「生きていくために必要な能力」で、非認知能力といわれている能力です。

人生を豊かにする「非認知能力」を育てる

非認知能力は、学力、IQといった数値で測れるものではありません。

しかし、これからの社会を生き抜くためには、IQの高さより、非認知能力の高さが求められるといわれています。非認知能力には、「誠実性(課題にしっかりと取り組むパーソナリティ)、自己制御・自己コントロール(目標達成に向けて自分を律する力)、好奇心(新たな知識や経験を探究する原動力)、批判的思考(情報を適切に読み解き活用する思考力)、楽観性(将来をポジティブに見て柔軟に対応する能力)、共感性(他者の気持ちを共有し、理解する心理特性)、自尊感情(自分自身を価値ある存在だと思ふ心)、時間的展望(過去・現在・未来を関連づけて捉えるスキル)、感情調整(感情にうまく対処する能力)、情動知能(情動を賢く活用する力)、レジリエンス(逆境をしなやかに生き延びる力)、グリット(困難な目標への情熱と粘り強さ)等」があります。

では、その中のグリットについて紹介します。

GRIT(グリット)～困難な目標への情熱と粘り強さ～

「GRIT」、最近よく耳にする言葉です。

「GRIT」とは、

- Guts(度胸)：困難なことに立ち向う
- Resilience(復元力)：失敗しても諦めずに続ける
- Initiative(自発性)：自分で目標を見据える
- Tenacity(執念)：最後までやり遂げる

のそれぞれの頭文字をとって「GRIT(グリット)」と呼んでいる非認知能力の1つです。高い目標を成し遂げる人とは、どのような特徴をもつ人でしょうか。

たとえば、元フィギアスケート選手である羽生結弦さんについて考えてみます。羽生さんは、選手時代にオリンピック2大会連続金メダリスト、世界ランキング1位と優れた実績をもつ人です。しかし、彼は、もともと順風満帆だったわけではなかったようです。ひどい喘息もちで、療養のため体力面で苦労したようです。また、激しい腹痛で手術したり、練習や衝突事故で足に大きなケガを負ったりなど、大会出場を断念したこともありました。彼は、インタビューの中で、「壁の先には壁しかない」と語るほどに、そのスケート人生には数多くの困難がありました。途中で心が折れていたら、偉業は成しえなかったことでしょう。羽生さんのこのような重要目標への取り組みの姿勢は、GRIT(グリット)という心理特性から捉えることができるといえます。研究から「高い業績を上げる人の態度や行動の特徴」として、「他の人よりも偉業を成しとげる人」はIQの高さではなく、「粘り強さ」に関係があることがわかりました。本校の身に付けさせたい能力の1つである「やりぬく力」です。GRITの教育の可能性については、「①GRITの概念を教職員が理解すること、②児童に「達成したい、できる」という気持ちを育むこと、③個性を育むこと、④目標の構造化」等があげられます。ご家庭と学校で「認め・誉め・励ます」ことで、「やりぬく力」を伸ばしていきましょう。



参考文献：小塩真司編著. 非認知能力 概念・測定と教育の可能性(北大路書房)

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては
毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.hiqo.ed.jp/kaedenomori/>

楓の森小 HP

